

公民館だより 11月号

『文化・芸術の祭典』

生涯学習フェスティバル



11月2日(金)、3日(土・祝)、文化・芸術の祭典『生涯学習フェスティバル』を開催しました。

【作品展示】は、各サークルの作品をはじめ、町内の各種団体・個人が出展した工芸品や絵画など様々な作品が展示会場を埋め尽くし、訪れた皆さんはレベルの高い作品に見入っていました。

3日(土・祝)【ステージ発表】では、町内の団体 20 組が出演され、日ごろの練習の成果を存分に発揮した素晴らしい内容に、会場は拍手に包まれました！この他、各種体験・相談コーナーに多くの方が参加した【健康づくりフェスティバル】や、婦人会と小学校児童による【町民茶席】、パトカーや白バイが応援に駆けつけた【交通安全フェスティバル】や【図書の無償配布】など“文化・芸術の秋”にふさわしい2日間となりました。



今月の折込チラシ

今月号の公民館だよりには、以下のチラシが折り込んであります。ぜひご覧ください。

- ・『ガーデニング教室(第6回)参加者募集』
- ・『パソコン教室(ワード活用コース)参加者募集』

「未来の夢こども体験講演会」～元なでしこJAPAN・大竹七未氏～

10月17日(水)に、出雲崎小学校・出雲崎中学校において元なでしこJAPANのサッカー解説者：大竹七未氏を講師に迎え「未来の夢こども体験講演会」を開催しました。

講演では、子どもの頃自分が描いた「サッカー選手になる」という夢と、それを叶えるためには諦めず努力をしてきたことが語られ、子どもたちはその言葉に勇気づけられていました。みんなが思い描く“夢”に向かって走り続けてください。



第22回奥の細道天の河俳句大会

10月19日(金)に中央公民館において「第22回奥の細道天の河俳句大会」が開催されました。

毎年、県内各地の俳句愛好家たちから俳句を募集しているこの大会ですが、今年度は252人の方から全部で1,260句の応募があり、その中で井鼻の細木郵子さんが新潟日報賞に入選(第四位)されました。

また、現代俳句協会長の宮坂静生氏を講師に迎え、戦後俳句の流れについてご講演いただきました。

新潟日報賞 入選作

手庇や春の光りとなる鷗

細木 郵子



出雲崎総合大学のご案内

■文化コース■

「地元の食材料理

～豆腐を作ろう!～」

【日時】11月20日(火)13:30～

【場所】中央公民館調理室

【講師】農村地域生活アドバイザー

■文化コース■

「地元の企業見学」

【日時】11月27日(火)9:00～

【集合場所】中央公民館

【見学先】越後工業㈱

■理科コース■

「健康教室 体の健康～運動編～」

【日時】12月7日(金)13:30～

【場所】中央公民館講堂

【講師】運動指導士 安野加代子

図書館だより(新刊案内)



中央公民館



戦後史の正体

…孫崎 享 著

日本の戦後史は、アメリカからの圧力を前提に考察しなければその本質が見えてこない。元外務省・国際情報局長が、タブーを破り日米関係と戦後70年の真実について語る。



ああ面白かったと言って死にたい

…佐藤 愛子 著

失敗した人生も、成功した人生も、頑固な人生も、怠け者の人生も、老人たちはそれなりに生きてきた実績を抱えている。作者自身の波瀾万丈の日々が紡ぎ出した人生の真実。

町立図書館(海岸公民館)



脳には妙なクセがある

…池谷 裕二 著

「ムード」や「カリスマ」など、見えざる力に弱い理由とは? 笑顔をつくると楽しくなる!? など、あまりにも人間的な脳の本性をたっぷりと解説します。



読書の技法 - 誰でも本物の知識が身につく

熟読術・速読術「超」入門 …佐藤 優 著

正しい読書法を身につければ、人生を2倍・3倍豊かにすることができる。月平均300冊、多い月は500冊以上の本を読破するという著者の「本の読み方」を初公開!

※この他の新着図書は、新着一覧を中央公民館・町立図書館(海岸公民館)それぞれに掲示しておりますのでご覧ください。



芭蕉のこころは今なお：

公民館長 佐藤 亨

人の業績など、歴史上の事実が大きな評価を得ることがある。

約230年前、全行程2,400kmをほぼ150日かけて東北・北陸を歩いた松尾芭蕉の『月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり』で始まる「おくのほそ道」紀行文も正しくその一つである。その紀行文集は、文学表現が豊かで、俳句においてはわび・さびを含め、人や物事・自然を深い愛情を持って眺めるなど日本の文学史上でも最高傑作とされている。芭蕉や一派の、いわゆる「蕉風」は、現代に至っても多くの人を魅了する。

9月に第25回「奥の細道芭蕉サミットこまつ大会」が石川県小松市で開催された。サミットは毎年、芭蕉とゆかりのある地で開催される。出雲崎町でも平成4年第5回のサミットを開催している。芭蕉は「そぞろ神」にひかれるように出立したが、そこまではいかないまでも、関心を持って参加してきた。「こまつ大会」は600人を超す人たちが集まった。一度も会ったことのない芭蕉を縁として、多くの人が出会うのはすごいことである。

芭蕉は、小松で「むざんやな 甲の下のきりぎりす」(痛ましいことだ。勇ましく戦

った実盛の名残はなく、かぶとの下にはただコオロギだけが鳴いている)「石山の 石より白し 秋の風」(那谷寺の境内にはたくさんの白石があるが、それより白く清浄に感じるのが秋の風だ。おごそかな空気が立ち込めている)など詠んでいる。本文を省略しているので俳句との脈絡が理解しがたいところもあるが、単なる風流でない奥深いところが芭蕉の極意なのだろう。

考えてみて、「奥の細道」全文を見ると、芭蕉が足を止めて俳句を詠み、本文に記した個所は概して歴史上名だたる所や風光明媚立つ傾向がある。出雲崎で「荒海や・・・」を吟詠したことは、本文には地名が出てこないが、芭蕉が佐渡への旅愁を詠むにふさわしい地であったと「銀河の序」から理解している。

加賀での芭蕉のかかわりや詩心の一端を学び取ることができ、また、「こまつ大会」全体を通して、関係者の「熱意」と「創意」、「感謝の意」も感じ取ることができた。出雲崎でも先般、第22回「奥の細道天の河俳句大会」が開催されたが、ここでも同様に「意」が尽くされ、盛大な大会となった。



〈西乃越句会〉

颯風雲城趾の森を先攻す

吉水 吉水 桔女

お互いに人の名出ずに萩の散る

川西 遠藤 比呂女

〈越後出雲崎 渚会〉

近径となり櫓田の下校の児

井鼻 細木 郵子

墨を磨る香の流れゆく櫓かな

大門 磯部 游子

〈出雲崎小学校児童の俳句〉

赤とんぼ山から海へとんでいる

四年生 穂苺 虎汰朗

風にゆれ花たちおどる花ダンス

四年生 諸橋 隆成

秋の川ささ船作って競争だ

五年生 佐藤 芽生

赤とんぼ夕日めざして飛んでいく

五年生 佐藤 美憂

友達がカマキリ見つけじまんする

六年生 山田 大地

紅葉の景赤くて小さい子どもの手

六年生 重住 有紀



今月の一句





出雲崎町 4 - 4 柳津町



10月20日(土)町民野球場にて「第4回柳津町・出雲崎町親善野球大会」を開催しました。昨年は雨天のため中止となりましたが、今年は青空の下熱い試合を繰り広げ、両者互いに譲らず4対4の引き分けで幕を閉じました。本町と姉妹都市の福島県柳津町との友好関係をより一層深める大会となりました。

二市三刈羽ブロック社会体育研修会



10月28日(日)中央公民館・町民体育館において、「平成24年度二市三刈羽ブロック社会体育研修会」を開催しました。この研修会は長岡市・柏崎市・刈羽村・出雲崎町のスポーツ推進委員が知識と技術を学び、交流を深めることが目的です。講演として、トレーニング教室でお馴染みの山本 潤様から「最新のトレーニング法」として子供から高齢者までが実践できる内容をお話いただきました。また、実技研修では今度から中学校で必修となったダンスを今井 あかね様(STUDIO JFB+H かむろ真鶴所属)から指導いただき、大変実りある研修会となりました。

第6回町民ウォーキング



10月7日(日)「第6回町民ウォーキング」を開催しました。あいにくの天候となりましたが、雨にも負けず、みなさん頑張りました。

今回実施したルネックウォーキングのポールは、町民体育館で貸出しいたしますので、お問合わせください。

第31回町内ゲートボール大会



大会結果
 優勝：小木ノ城B
 準優勝：上中条
 第三位：いきな
 三 楽

バレーボール教室



10月24日(水)から全8回で「バレーボール教室」が始まりました。

楽しそうに一生懸命練習している姿が印象的でした。

11月の指導員日程 ~トレーニングルーム~

11/27日(火) 19:00~20:00

☆お気軽にお声かけください☆

